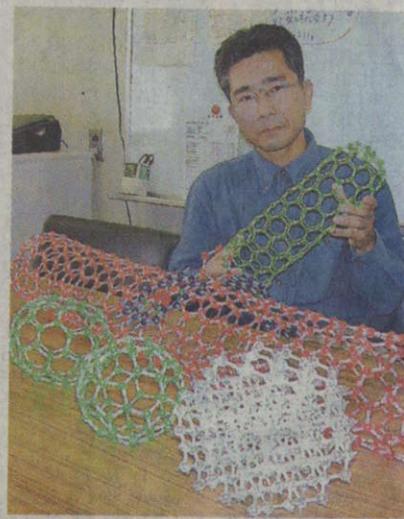


イノベーションの産学公の研究室

模型を使ってナノ炭素化合物を説明する小松教授（大津市・滋賀医科大）



鋼鉄よりも約八十倍硬いが、六十度曲けても元に戻るほどしなやか。電気をよく通ず性質もある微少な炭素化合物「ナノカーボン」。中でも球状のフラーレンや管状のカーボンナノチューブはナノテクの代表素材として、高精細なディスプレイや高性能の半導体など、電子部品材料への活用が期待されているが、課題は純度100%の素材を量産する技術の確立。これ

が協力して観光振興だ。内の観光資点だった。て面にし、ければなら

滋賀医科大 小松直樹助教授

ナノ技術の確立に意欲

ができれば、さまざまな応用や用途開発にはずみがつく。

そんな中、京都大理学部助手だった二〇〇一年に、複数の種類のフラーレンを含む混合物を活性炭でろ過し、従来の十八分の一の時間で一種類だけを分離精製、純度を高める方法を開発した。この技術を基に、国内外で約二十件の特許を出願、三菱化学系のベンチャー企業へ技術移転した。

一年前に滋賀医科大に赴任し、現在は学外の研究者と協力してナノチューブとナノダイヤモンドの精製技術の開発に取り組む。「精製方法の確立は産業界にとって大きなインパクトになる。ぜひ技術を確立したい」と意欲を燃やす。

県社協に杖360本
創業25周年で寄贈

ビジョンメガネ

眼鏡販売のビジョンメガネ（大阪府東大阪市）はこのほど、県社会福祉協議会に杖三百六十本（約二百万円相当を寄贈）

ズの精神は、今後あるべき社会の方向性をも示しているのではないかと締めくくった。

郵政民営化の課題など議論

会議所会頭

宮崎 君武さん

ずか十分で行けることを知らない人もいる。京都や奈良とも連携、たい

近年減少している会員の増強策

は。現在、会員数約千八百。商工